

「もう、忘れていいよ。
わたしがここで、覚えてるから」

『テロリストは僕だった』
大矢英代

『標的の村』『標的の島風かたか』
三上智恵

沖縄 スパイ 戦史

監督:三上智恵、大矢英代

プロデューサー:橋本佳子、木下繁貴

撮影:平田 守 編集:鈴尾啓太 監督補:比嘉真人 音楽:勝井祐二

協力:琉球新報社、沖縄タイムス社

製作協力:沖縄記録映画製作を応援する会

製作:DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵、大矢英代

配給:東風

2018/日本/DCP/114分/ドキュメンタリー

ふたりのジャーナリストが迫った沖縄戦の最も深い闇。
少年ゲリラ兵、戦争マラリア、スパイ虐殺……
そして、ついに明かされる陸軍中野学校の「秘密戦」とは？

www.spy-senshi.com



戦後70年以上語られなかった 陸軍中野学校の「秘密戦」、 明らかにするのは過去の沖縄戦の 全貌だけではない。

第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む20万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が自決する1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部ではゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いた。作戦に動員され、銃を持ち故郷の山に籠って米兵たちを翻弄したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「護郷隊」として組織し、「秘密戦」のスキルを仕込んだのが日本軍の特務機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。

1944年の晩夏、42名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に渡った。ある者は偽名を使い、学校の教員として離島に配置された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の狙いとは。そして彼らももたらした惨劇とは……。

「散れ」と囁くソメイヨシノ

「生きる」と叫ぶカンヒザクラ

長期かつ緻密な取材で本作を作り上げたのは、二人のジャーナリスト。映画『標的の村』『戦場ぬしみ』『標的の島 風かたか』で現代の闘いを描き続ける三上智恵と、学生時代から八重山諸島の戦争被害の取材を続けてきた若き俊英、大矢英代。

少年ゲリラ兵、軍命による強制移住とマリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……。戦後70年以上語られることのなかった「秘密戦」の数々が一本の線で繋がるとき、明らかにするのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。

映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓を孕んだままの「自衛隊法」や「野外令」「特定秘密保護法」の危険性へと深く斬り込んでいく。

瞠目しました！
僕ら日本人は、あの日本の戦争に就いて、未だ未だ何も知らない、知らされていない。知らぬ事は罪。これは日本人、否世界の人間共にとって、必見の一作!!
立派な作業に、頭を垂れます。目醒めよ!

大林宣彦(映画作家)

あの戦争は、地続きだった。沖縄と、本土と。過去と、今と。それを断絶しているのは意図的に作られた壁が、それとも無関心という溝なのか。背を向ければ、再び地獄は忍び寄る。生き抜いた人々の声は、私たちへの警鐘そのものだった。

安田菜津紀(フォトジャーナリスト)

第43回 不戦を誓う 三多摩集会

1941年12月8日未明、日本は真珠湾（パールハーバー）に奇襲攻撃を行い、太平洋戦争に突入しました。私たちは、

この12月8日を「二度と戦争をしない」ことを誓う「不戦の日」として、毎年、様々な企画を取り組んでいます。

今回は沖縄戦に「秘密戦」があったことを知って頂きたい、映画『沖縄スパイ戦史』を上映いたします。

ぜひ、お問い合わせでご参加ください。

日時 2023年12月11日(月)

開会 18:20 (開場 17:50)

会場 国分寺市立いずみホール